経営比較分析表（令和4年度決算）

山口県　周南市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	63.63	92.07	2,893	

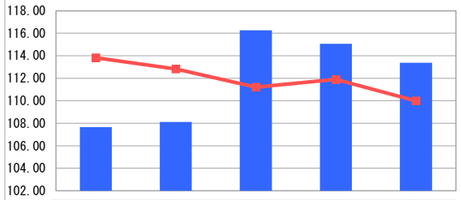
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
138,104	656.29	210.43
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
126,365	98.70	1,280.29

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

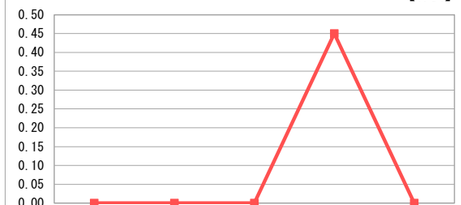
【108.70】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	107.65	108.11	116.26	115.05	113.38
平均値	113.82	112.82	111.21	111.89	109.99

②累積欠損金比率(%)

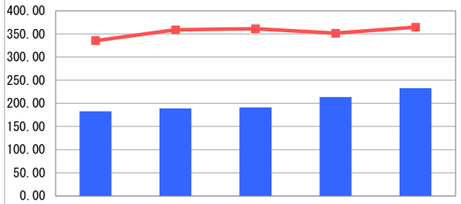
【1.34】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.00	0.00	0.00	0.45	0.00

③流動比率(%)

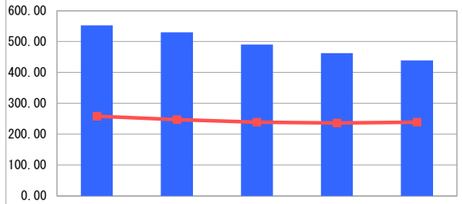
【252.29】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	183.04	188.91	191.45	213.64	232.46
平均値	335.60	358.91	360.96	351.29	364.24

④企業債残高対給水収益比率(%)

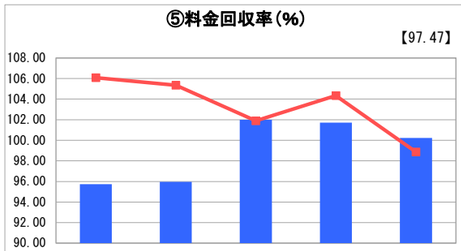
【268.07】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	552.13	529.93	490.55	462.26	438.84
平均値	258.26	247.27	239.18	236.29	238.77

⑤料金回収率(%)

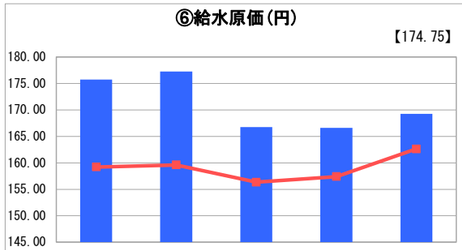
【97.47】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	95.74	95.96	101.99	101.72	100.24
平均値	106.07	105.34	101.89	104.33	98.85

⑥給水原価(円)

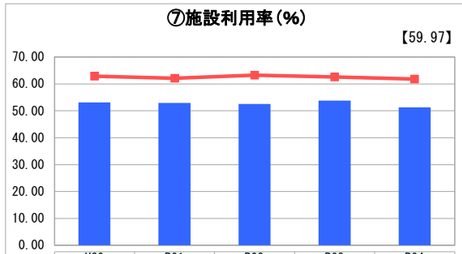
【174.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	175.74	177.24	166.76	166.61	169.26
平均値	159.22	159.60	156.32	157.40	162.61

⑦施設利用率(%)

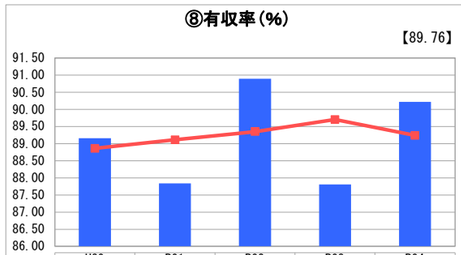
【59.97】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	53.12	52.94	52.50	53.80	51.32
平均値	62.83	62.05	63.23	62.59	61.81

⑧有収率(%)

【89.76】

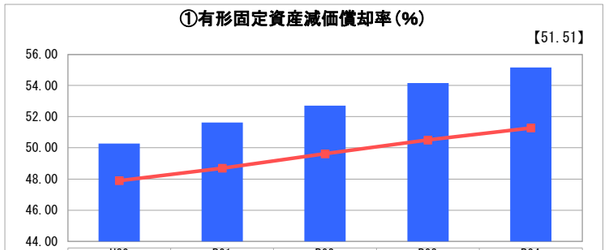


	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	89.16	87.84	90.89	87.81	90.22
平均値	88.86	89.11	89.35	89.70	89.24

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

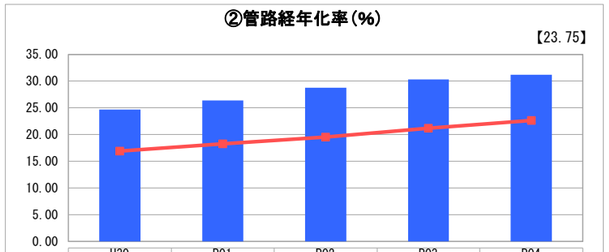
【51.51】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	50.27	51.62	52.70	54.15	55.16
平均値	47.89	48.69	49.62	50.50	51.28

②管路経年化率(%)

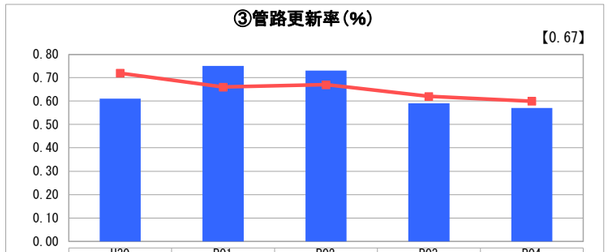
【23.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	24.67	26.38	28.77	30.31	31.16
平均値	16.90	18.26	19.51	21.19	22.64

③管路更新率(%)

【0.67】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.61	0.75	0.73	0.59	0.57
平均値	0.72	0.66	0.67	0.62	0.60

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
　100%を上回っており健全な経営状況である。類似団体平均値も上回っている。
③流動比率
　100%を上回っており健全な経営状態である。類似団体平均値と比較すると下回っているが、200%を上回っており、支払能力に問題はない。
④企業債残高対給水収益比率
　類似団体平均値と比較すると大幅に高い。市町村合併等により複数の浄水場及び水源を有し、平成28年度末に熊毛地区水道事業、鹿野簡易水道事業を水道事業に統合したため、企業債残高が大幅に増加した。内部留保資金を活用して借入額を調整し、残高の減少に取り組んでいる。
⑤料金回収率
　100%を上回っており経営に必要な経費を料金で賄えている。
⑥給水原価
　類似団体平均値と比較すると高い。市町村合併及び簡易水道事業の統合等により複数の浄水場と水源を有し、維持管理費用等がかかるため給水原価が高くなっている。令和4年度の増加は動力費の高騰などが影響している。
⑦施設利用率
　類似団体平均値と比較すると低い。配水量が平成4年度をピークに大幅に減少し続け、施設利用率は低くなっていたが、平成29年度に一の井手浄水場の浄水処理を中止し、菊川浄水場の給水ブロックに統合することで施設の有効利用が図られた。
⑧有収率
　類似団体平均値と比較して若干高い。漏水調査や漏水回数の多い管路の布設替等の対策により有収率が上昇した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、施設が古いため、有形固定資産減価償却率が高い傾向にある。
②管路経年化率
　類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、老朽管が多いため、管路経年化率が高い傾向にある。
③管路更新率
　類似団体平均値と比較すると若干下回っている。本市水道事業は、管路経年化率が高いため、計画的に老朽管更新工事を進めている。

全体総括

　現状においては、毎年度純利益を確保しており、経営状況は比較的良好である。
　しかしながら、本市の総人口は昭和60年をピークに減少が続き、また、節水型機器の普及や節水意識の浸透などにより水需要が減少し、それによる給水収益の減少が予想される。一方で、高度成長期に建設した水道施設が次々と更新時期を迎えることによる更新需要の急激な増加への対応が急務となる。今後も、水道事業ビジョンに基づき、施設や管路の効率的・計画的な更新を進めていく。
　また、企業債残高について、平成22年度末残高133億円から平成27年度末残高106億円と着実に企業債の削減を進めてきたが、熊毛地区水道事業及び鹿野簡易水道事業を水道事業に統合したことに伴い、平成29年度末残高は151億円と大幅に増加した。令和4年度末残高は113億円で着実に減っているが、今後も内部留保資金等を考慮しながら借入額を調整し、引き続き残高の削減に努める。